

# タイ シミラン クルーズ始動!

edive 2008-2009

タイのダイビングボートは、どれも大きなタイ国旗を掲げている。青空に三色旗が映える

タイの人気ダイビングクルーズのシーズンが、今年もやってきた。日本人ダイバーにとっても、すでにかなり認知されているシミランクルーズは、11月にシーズンインして、5月のGWまでという半年間の期間限定クルーズだ。残りの半年間は、雨季で激しく雨が降り続き、西風も強く吹くために、まったく催行されていない。タイのサービスの中でも、経験豊富で生物に詳しいガイド陣がそろって、ediveのシミランクルーズが今年も始動する。

Special Thanks : edive  
Photo and Text : Takaji Ochi  
Design : Maya

edive Similan Cruise, Thailand

Web-lue 2008-2009. Winter



Information Link  
<http://www.edivekhaolak.com>

← [関連情報HPへ](#)

# 大好きなのは、 「トトロの根」

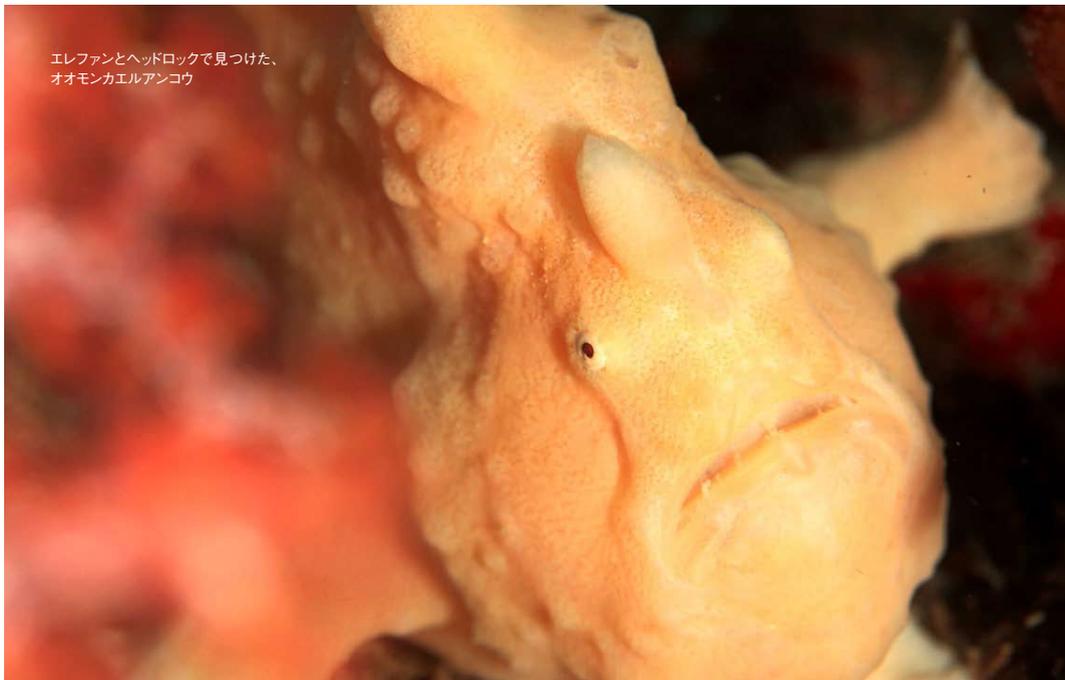


アナタスリーフの「トトロの根」は超癒しスポット。カラフルなソフトコーラルに包まれた景観に見とれてしまう

タイ・シミランクルーズ始動！  
**edive Similan Cruise, Thailand**  
Web-lue 2008-2009. Winter



エレファンとヘッドロックで見つけた、  
オオモンカエルアンコウ



婚姻色を見せる、アンダマンミミック  
ファイルのオス（手前）とメス

01/オニカサゴとソフトコーラル

02/プリンデエビ

## 大好きなのは、 「トトロの根」

**ま**ずシミラン諸島は、南北に連なる8つの島々から構成  
されていて、ダイビングスポットはその島々の間に点  
在している。島の西側は、岩がちで豪快な地形ポイント、東  
側には、揺るやかなスロープ状の砂地に、ソフトコーラルや  
ハードコーラルの根が点在する、癒し系ポイントが点在して  
いる。

**中**でも美しいのが、アニタズリーフにある巨大なハマサ  
ンゴの中に、極彩色の彩りを放つ、ソフトコーラルが  
群生している、通称「トトロの根」。いつの頃からそう呼ばれ  
るようになったのだろうか。もちろん日本人ダイバーの間だ  
けの呼び名だとは思いますが、巨大なハマサンゴがトトロのよ  
うに大きくて、その中のソフトコーラルの群生が、まるで御伽  
噺の世界のような美しさを放っているからそう呼ばれている  
のだろうか。

**自**分自身、シミラン諸島の中でも一番のお気に入り、  
このトトロの根だ。毎回訪れるたびに、この根の周り  
で時間をかけて撮影を行う。根には、スカシテンジクダイが



エデンの深場では、ヘアのクダゴンベを見つけた

群れ、その群れを狙うようにユカタハタが何匹もくぼみに身  
を隠している。周囲には、ヤマブキスズメダイやインディ  
アンフレームバスレットなどが乱舞して、よく群れを観察して  
いると、ハナダイギンボが一緒になって必死に泳いでい姿  
を見ることができる。

彼らが逃げ込む巣穴も沢山あって、そこから顔をのぞか  
せるハナダイギンボを撮影したり、太平洋側とは少し体色の  
違う、クジャクスズメダイなどを狙って撮影する。1ダイブ、こ  
のポイントに留まっても、まったく飽きることは無いのだ  
けど、ダイビングのルートとしては、アニタズリーフの最後の  
山場のポイントになっているので、エアの残りや、減圧の問  
題もあり、なかなか時間をかけられない。

ときには、ピンポイントで、トトロの根に落としてもらって、  
皆が海中散歩を楽しんでいる間に、一人そこに留まって撮  
影をすることもある。

タイ・シミランクルーズ始動！  
**edive Similan Cruise, Thailand**  
Web-lue 2008-2009. Winter

まさかこんな模様のマンタに会えるなんて。なんだかとても幸せな気分になった。ポン島にて

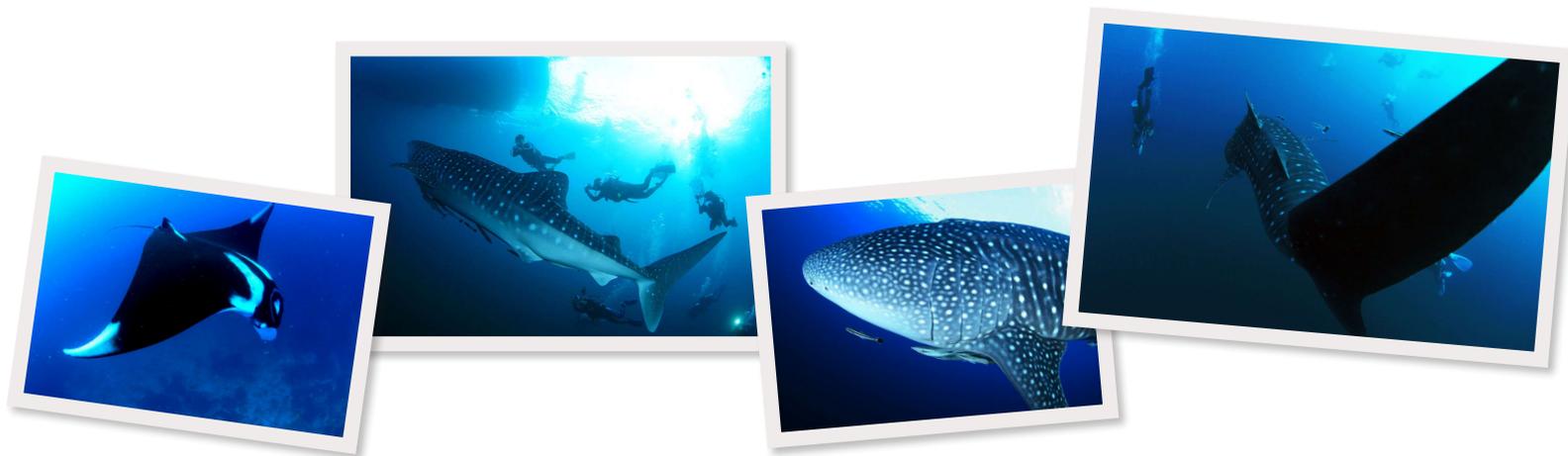


イタズラ顔のマンタに遭遇。  
今年も会えるかな

タイ・シミランクルーズ始動！  
**edive Similan Cruise, Thailand**  
Web-lue 2008-2009. Winter



# 越智隆治、 忙中鮫あり。 人面海鰐魚と大鮫に 遭遇すること



## イタズラ顔のマンタに遭遇。 今年も会えるかな

シミラン諸島の北には、ボン島、タチャイ島、などの孤島と、その先には、干潮の時に岩礁の頭だけを海面に覗かせる、リチュエロックなどのポイントが賑々と点在している。

シミラン諸島で、癒しのダイビングやマクロを堪能した後に向かうのが、マンタやジンベエザメなどの大物が期待できる、これらのポイント。

特にタチャイ島でのマンタ待ちのスタイルは、他の海でのそれとはかなり違っている。ほとんどの海でのマンタ待ちのスタイルは、クリーニングステーションで待つか、浅いリーフの上を行きかうマンタを探す。しかし、このタチャイ島では、水深30m以深あるポイントで、中層に浮遊しながらマンタ待ちをする。

もちろん、可能性が低そうなときには、岩礁に近寄って、マクロなど探しているのだけど、マンタに期待がかかっているときには、他を捨てて、中層でのマンタ待ちをするわけだ。このスタイル、個人的には結構好きで、マクロのリクエストが無い場合は、リーフがかすかに見えるくらい沖まで出て、中層でぼ～っとしている。

その日も、エントリーから、最後までほとんど中層に浮いてマンタ待ちをしていた。他のガイドやゲスト、他

のボートのダイバーたちも、この日はマンタはあまり望み薄と思っていたのか、皆リーフに近い場所でマクロなど堪能しながら、運が良ければマンタみたいな潜り方をしていた。

しかし、自分はマンター本狙い。その日ガイドについてくれていた、高見沢昇治君と二人、中層でぼ～っとしていた。「やっぱ出ないかな～」と半ばあきらめかけていたときに、沖の方からマンタがやってくるのを発見。驚かさないうように接近を試みるが、流れに逆らって泳いでいるせいもあり、激しくフィンキックしても、なかなか追いつかない。

一度は追うのを諦めようかと思ったが、少しスピードが緩んだ感じがしたので、無理せずに後を追った。すると、マンタが突然旋回してお腹を見せた。すでに僕は「これなら撮影できる距離」とカメラを構えていたのだが、そのマンタがお腹を見せた瞬間に、思わず吹き出していた。理由は、写真のとおり、まるで誰かにいたずら書きされたかのような、ハロウィンのカボチャに彫られそうな、かわいいイタズラ顔のような模様がはっきりとついていたのだ。

「こんな模様のマンタ見たこと無い」そのとき一緒にいたガイドの昇治君も、見たことがない固体だったそう。その後もし見たら報告してほしいと伝えてあったのだけど、昨シーズンの報告は、取材で訪れた別のカメラマンが目撃した1件だけだった。それでも、ほんの1回だけの遭遇ではなかったわけだから、今シーズンもこのイタズラ顔のマンタとの遭遇を期待したいと思う。

## お腹痛いのに 「ジンベエザメ出たよ」

タチャイ島での、イタズラ顔のマンタ遭遇で気をよくし、このままジンベエも！と意気込んでリチュエロックへと向かう。船上でゲストに出される辛味を抑えた食事ではなくて、クルーが食べているチリの効いたから～い食事を、つまみ食いさせてもらっていた。しかし、お腹の弱い僕は、あっという間に下痢に見舞われる。

仕事で来てる自覚が足りないと言えばそれまでののだが、この年のジンベエ状況は、前年度より芳しくなく、ガイドにも、「ジンベエ出そうだったら、連絡するから休んでくださいよ～。まったく～」とちょっと叱られ気味に言われながら、返事もそこそこに、トイレに駆け込んでいた。

すでに、気持ちはスキップして、部屋で横になる体勢。しかし、そのとき、どこからともなく「ジンベエ！ジンベエ！船の真下～！」と歓声が上がった。「え～、うそでしょ」と思いながらも、外に出てみると、隣の船のクルーたちも海中を指差している。

ダイブデッキを見ると、まだ状況が把握できていないのか、あまりの急な状況に戸惑っているのか、ほとんどのゲストダイバーが潜らずに船上にいた。それもそのはず、まだリチュエロックの根からはかなり離れている場所。隣の船のダイバーたちは今、そのリチュエロックで潜ってるために、

ジンベエの存在には気づいていない。

ということは、その日ジンベエを求めて周囲に8隻いた船の中で、ダイバーがジンベエに気づいているのは、ediveの船だけということになる。僕はその状況は瞬時に判断して、服を脱ぎ捨てて、ウエットを着て機材を背負った。「カメラは！」と誰にともなく叫ぶと、「もうアキが越智さんのカメラ持って、海に入ってます！」との声。

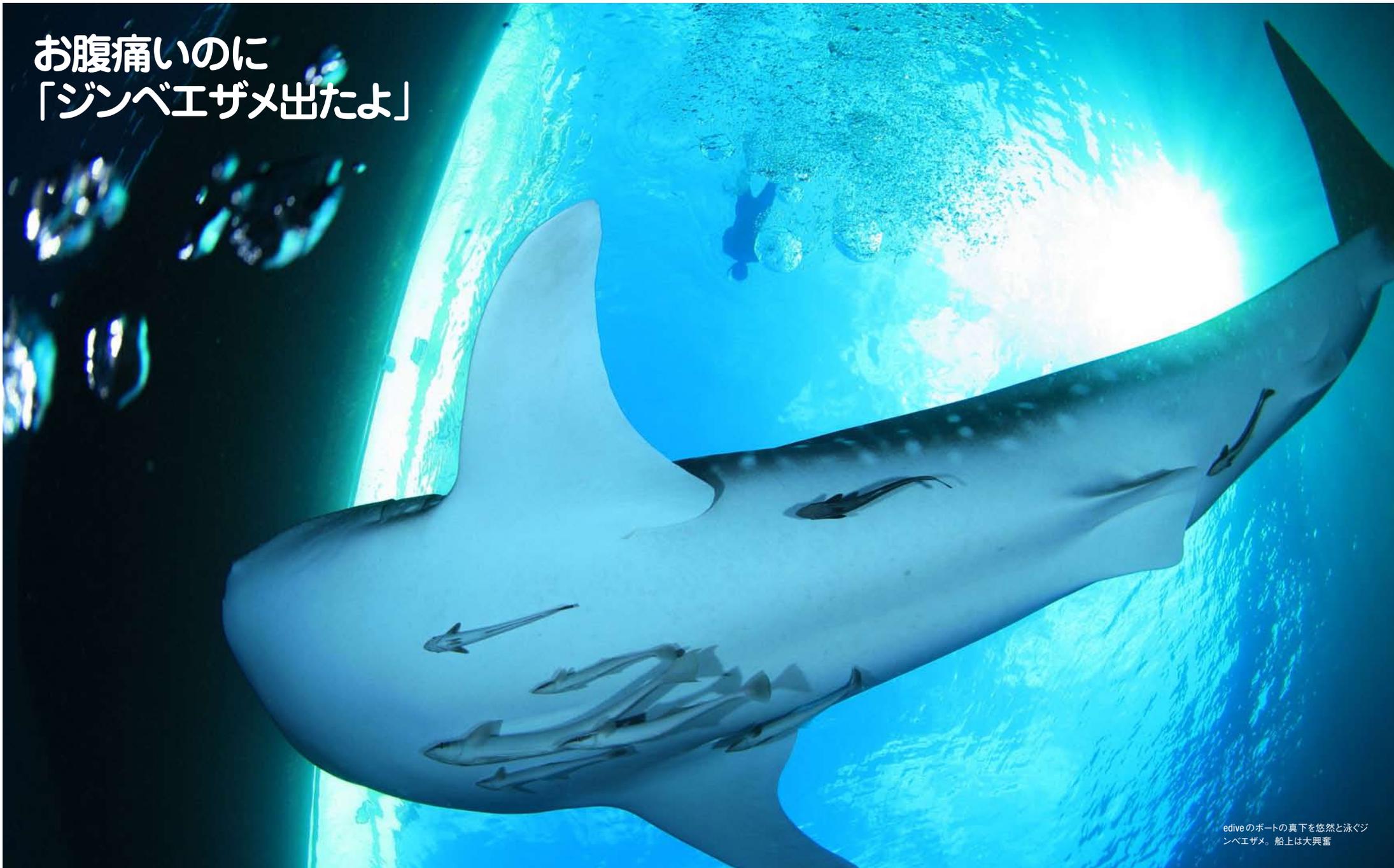
(もし、水中で彼に会えなければ万事体すだな)と思いながら何も持たずにエントリーすると、すぐ目の前にジンベエザメ。ガイドのアキちゃんを探そうとすると、目の前にカメラのハウジングが差し出された。「ナイスタイミング！」僕はそのまま、ジンベエザメへと猛ダッシュ。アキちゃんと、数人のゲストが後から続いているのを確認しながら、なんとか、他のガイドたちとも一緒に、ゲストのいる方へとジンベエを誘導するようにしながら撮影を続けた。

他の船もこの大騒ぎに気づいて、ダイバーたちが次々にエントリーしてきたのだが、時すでに遅く、ジンベエザメは海の彼方へ姿をくらませてしまっていた。総勢、少なく見積もっても50人以上。そのダイバーたちが、ブルーウォーターで目的を失い、一斉に向かったのが、そこからはまったく姿の見えないリチュエロック。その大移動の様子は壮観だった。

そして、あまりの興奮のために、お腹の痛さを忘れてしまった1ダイブだった。

タイ・シミランクルーズ始動！  
edive Similan Cruise, Thailand  
Web-lue 2008-2009. Winter

# お腹痛いのに 「ジンベエザメ出たよ」



ediveのボートの真下を悠然と泳ぐジンベエザメ。船上は大興奮

タイ・シミランクルーズ始動!  
**edive Similan Cruise, Thailand**  
Web-lue 2008-2009. Winter





黄色い体色がアンダマン海のアケボノハゼの特徴だ



接近しすぎて、寝ていたレオパードシャークを起こしてしまった



01

## 昨シーズンのアンダマン海の様子



02



03

- 01/ 昨年あらわれたマツカサウオも同じ場所で成長を続けていた。リチュエーロック
- 02/ おそらく、アンダマンでは初記録ではないかと噂していた、アフリカンリーフバスレットを発見
- 03/ 普段は深場でしか見れなかったフチドリハナダイ(メス)も見れる浅さまで上がってきた。ボン島にて

**前**シーズン(2007~2008)のアンダマン海は、「アケボノフィーバー」とガイドたちが驚くくらいに、アケボノハゼが異常に多く発生していて、エデン、エレファントヘッドロック、タートルポイント、ボン島などのポイントでは、水深20mくらいから、かなりの個体数が確認できていた。

水温は28~9度で例年通り。水温の違いによって見られるサーモクラインも少ない印象だったようだ。

**ジ**ンベエザメの出現率は、前年度に比べて、かなり減少していたようだし、マンタも少なかった。こう書くと、なんだか悪い印象を受けるが、その前年(2006~2007)に取材したときは、水温が下がり、海の透明度が落ちていたが、逆にジンベエザメのediveクルーズでの遭遇率は50%近かった。(WEB-LUE Vol11「ジンベエザメ爆発!」記事参照)。マンタも当然のように毎クルーズ遭遇していたし、一度に目撃するマンタの個体数も多かったのだ。

**毎**年変わらずシーズンインするアンダマン海だが、取材を続けていると、年によって、水温や透明度、マンタ



はたして、今シーズンのジンベエ遭遇率はいかに

やジンベエザメの出現率なども、大きく違っているのがわかる。それだけに、現地からの最新の情報は重要だ。

最近、多くのダイビングショップが行っていることではあるが、ediveでも、毎クルーズのクルーズ報告をHPで掲載してアンダマン海の情報発信しているから、参考にするとうい。

タイ・シミランクルーズ始動!  
edive Similan Cruise, Thailand  
Web-lue 2008-2009. Winter

# ガレ場に行こう！

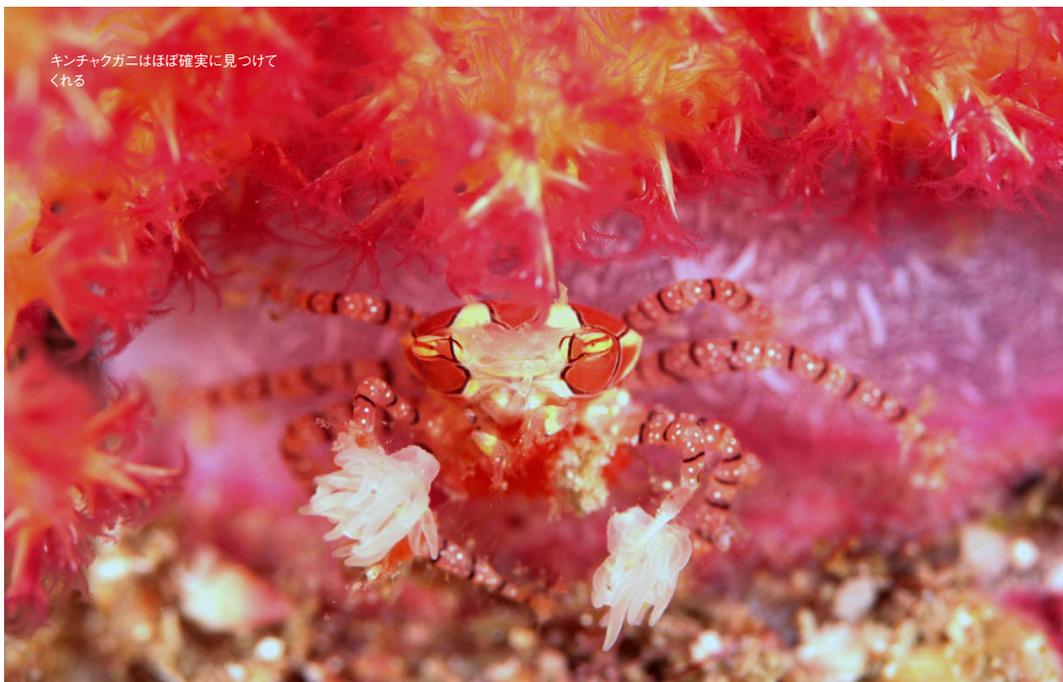


がれ場を探すと、面白い生物が次から次へと姿をみせた

小さなフリソデエビの  
ペアも発見

タイ・シミランクルーズ始動！  
**edive Similan Cruise, Thailand**  
Web-lue 2008-2009. Winter





キンチャクガニはほぼ確実に見つけてくれる



突然サンゴの下から姿を見せたベニカエルアンコウ

ediveのガイド、辻東信(アキ)君は、アンダマン海のガイドとしては珍しく、昨シーズンくらいから、ガレ場に着目したガイドをするようになった。ジンベエザメ遭遇率は高かったものの、透明度が極端に悪く、どうしようと思って始めたのが最初のきっかけだという。

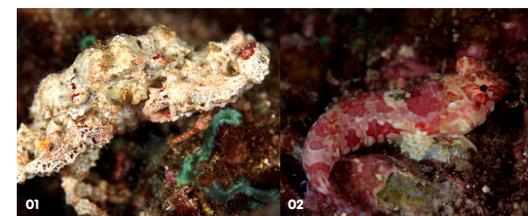
「最初、安全停止中に、アニタの浅場のガレ場で何気なく、堆積している石とかサンゴのかげらをめくっていたら、カエルアンコウの赤ちゃんやキンチャクガニを見つけたんです。その後、ガレ場が面白くなって、エレファントヘッドロックのガレ場をメインに、キンチャクガニとか探すようになった。水深15～6mのお気に入りのポイントでは、キンチャクガニ、カエルアンコウの幼魚、フリソデエビ、変わった甲殻類形の生き物などをかなり高確率で見つけ出すことができます」とアキ君。

「他に見るものがあるときはやらないけど、特にカメラ持っている人とかいて、撮影に集中しているときなどは、近くのガレ場でマクロ生物探すことが多いですね。でも基本的にはダイビングの最後の方、10m前後で、少しゲストに自由にしてもらうときにやることが多いので、これをメインにと考えて潜ることはありません。探している間も暇になってしまう人もいる

ので、例えばハナダイギンポとか被写体を案内して、撮影している間に探してみる人が多いですね。」

確かに、タイでは欧米人ガイドたちで、海底環境保護に尋常ではないくらいに気を遣う人もいて、着底しているだけで、怒られてしまうこともあるので、あまり表立ってガレ場探するのは難しいのが実情だ。

しかし、この日も、海中を浮遊して移動していく他のダイバーたちを尻目に、ガレ場捜索が始まった。結果は、ベニカエルアンコウの幼魚、フリソデエビのペア、イソギンチャクカニな



どの他、クビナシアケウス、ニライカサゴの幼魚、スターリードラゴネット、ゴブカラッパ、モクスシヨイなど、次から次へと見つけてくれた。

## ガレ場にいこう！ 奇妙な生物が 続々登場



01/ゴブカラッパ  
02/スターリードラゴネットの幼魚  
03/ヒメメンコヒシガニ  
04/オニカサゴの幼魚

タイ・シミランクルーズ始動！  
edive Similan Cruise, Thailand  
Web-lue 2008-2009. Winter



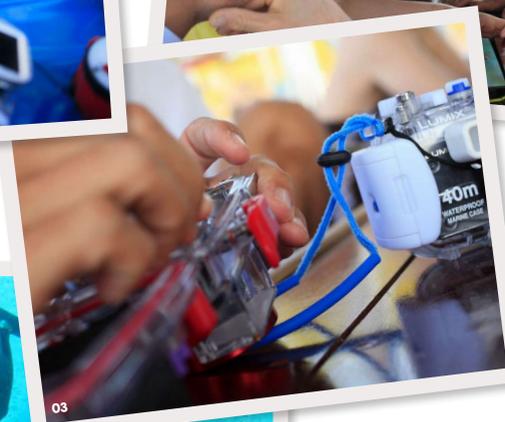
海中では、大きなスレートを使って、撮影ポイントを指示してくれる



01

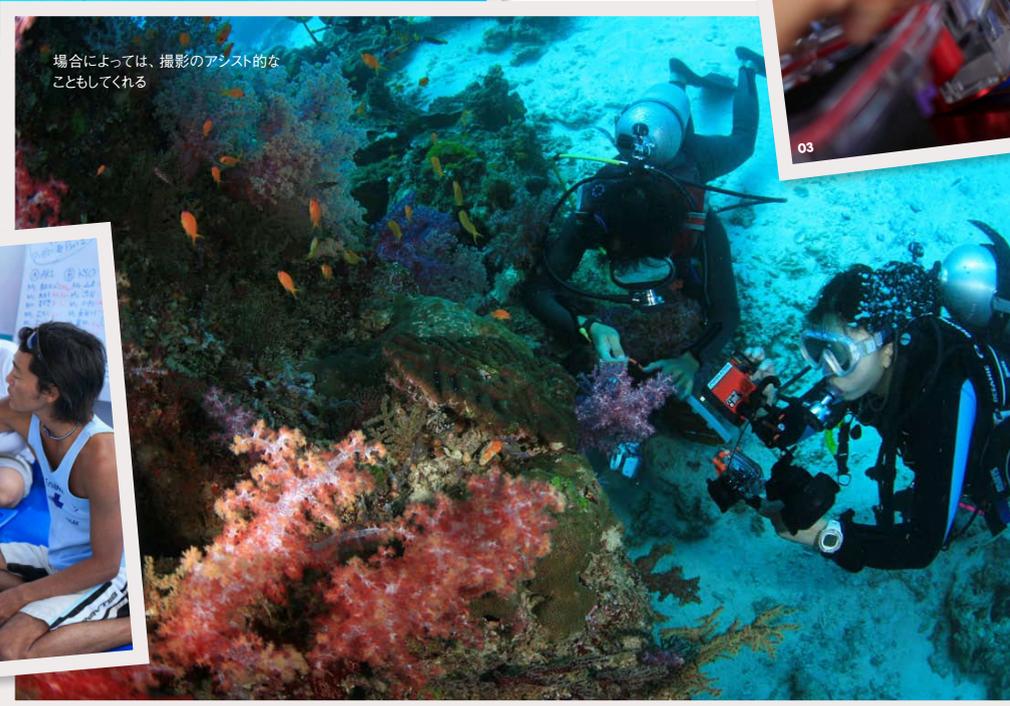


02



03

01/コンパクトデジカメは気軽に楽しめる水中撮影をアイテムに  
02/撮影した写真をその場でプリントアウトして皆で品評会を楽しむ  
03/水没しないように、メンテナンスは慎重に



場合によっては、撮影のアシ的なことしてくれる

船上では、どの魚が被写体として狙いやすいかなどレクチャーしてからエントリー



## 誰でも気軽に楽しめる 船上フォトコンテスト

ediveでは、毎クルーズ乗船中に、船上でデジカメによるフォトコンを開催している。フォトコンと言っても、敷居の高いものではなくて、ゲスト全員が参加可能。そのほとんどが、外付けストロボもついていないコンデジでのエントリーだ。

撮影に関しても、ガイドがコンデジでどのように良い写真を撮影するかや、撮影しやすい被写体や状況などをレクチャーしてくれる。「私は下手だから」と遠慮しないで、積極的にレクチャーを受けて、参加するほうが得だ。なぜなら、年間グランプリを獲得すると、クルーズフリー乗船などの副賞がもらえる可能性もあるからだ。

タイ・シミランクルーズ始動！  
edive Similan Cruise, Thailand  
Web-lue 2008-2009. Winter

オレンジブルー号は、クルーがまめに掃除をしているので、清潔で使い心地がよい



No4アイランドのバランスロックに登り、夕日を眺める



01



02



03

## edive、 精鋭ぞろいの頼れるスタッフ陣

01/ゲストから、スタッフ集合写真を求められ、笑顔でポーズ  
02/島上陸は、スタッフも同行。一緒に夕日を眺める  
03/オーナーガイドの一人、東中川真一さんと女性スタッフ  
04/自然体が人気の平川恭さん  
05/今回メインのガイドを務めてくれた、アキ(辻東信)ちゃん  
06/タイの日本人ガイドの中でも魚通、高見沢昇治さん  
07/陽気なediveの日本人スタッフたち



04



05



06



07

## ediveのこと

サービスの雰囲気は、基本的にきちとした感じではなく、スタッフたちは、友達感覚でゲストと接する。そのためか、ゲスト、特にリピーターとの雰囲気は、とてもアットホームだ。そのアットホームさが嫌味でなく、居心地が良いのは、リピーター率の多さに伺える。

ダイビングに対しても、うるさく言われることはない。「ある程度ルールを守ってくれば、船上でも、ダイビング中でも好きにしてもらっていいです。ゲストの個性を生かすダイビング

を心がけてるっていうのかな」と基本は放任ダイビング。しかし、タイでのガイド歴が長く、経験豊富で、魚にも精通した精鋭ガイドたちが、彼らなりの視点で、アンダマン海の魅力をしっかりと案内してくれることに関しては、長年ediveで取材している自分が保障する。

昨シーズンも、新たにボン島でアフリカンリーフバスレットの生息を確認するなど、魚のリサーチにも余念がない。

タイ・シミランクルーズ始動!  
edive Similan Cruise, Thailand  
Web-lue 2008-2009. Winter